



平成 28 年 7 月 15 日  
第 2 8 1 号  
清野新聞社

北海道帰省報告(修)

六月二十九日(水)から七月七日(木)まで北海道へ帰省してきました。今回は八泊九日と長旅にもかかわらず、サイクリングやクラス会を組み込んだために、かなりハードスケジュールでした。

六月二十九日(水)守谷発

午前中は出勤して午後四時頃出発。今回はバイクをたたくので新車ベゼルに積み込み、守谷の自宅から一時間ほどで大洗港に到着。日

程がとれる際は、我が家からフェリーの旅が最も快適です。大浴場にサウナもあり、海を見ながら風呂上がりのビールが最高です。夜はピアノコンサートも

六月三十日(木)芭露へ

午前中の映画は大泉洋が主演の「葡萄の涙」で北海道空知の農村を舞台にした感動のストーリーでした。午後二時前に苦小牧に上陸し、途中面白い物などをして、夕方六時頃に芭露到着

七月一日(金)湖水の杜へ

朝一番で野菜畑の耕作や草刈を行い、湖水の杜へ親父を訪ねる。ちょうど朝食後でテーブル席におり、体調もよく満面の笑顔で迎えてくれました。今回は私の竹炭アートのこだわり最新作品として曼陀羅解説をつけて施設に置いてきました。

七月一日(金)から三日(日)までオホーツクサイクリング

二泊三日で雄武町から斜里町まで自転車走るオホーツクサイクリングに参加してきました。



実家を出発 7/1

「何故オホーツクサイクリングに参加したか」

昨年の七月あたりから腰痛に苦しみ、医者に聞いても特別な処方がなく、水泳や自転車筋トレするくらいかなといわれました。

今年の二月にクラス会準備打ち合わせで遠軽周辺者と懇親をした際に「自転車で筋力を鍛えようと思う」というと、上田誠一君が「修、そんなバカなこと、やめれ！」に始まって「いやいや、200kmサイクリングにも出るつもりだ」と、その時は思いつきの冗談話で、いつもの売り言葉に買い言葉の茶化し合ひでした。帰り際に「修は照れかくしの冗談で言いながら結局やってしまうからな。お前は子供の時からそういうやつだった。」の一言が印象に残っていました。

これが幼馴染との最後のやり取りになるとは全く思ってもみませんでした。五月六日に突然亡くなってしまい、連絡をもらった際に、最初に頭に浮かんだことでした。誠一君は幼少のときからチビ同士の遊び友達で、何かせずにはいけない感情が湧いてきて、冗談話を実行しようと思ひ立ちました。実はそれから二ヶ月間、近くの河川敷のサイクリングコースでじっくりと鍛錬しました。大会が終わって気がついてみると、おかげ様で腰痛やひざ痛はいつのまにか完全に消え、体重は10%、ベルトの穴が二つも縮んでいました。



上田誠一君 2/6 遠軽

(詳細は第282号で) 道の駅「愛ランド湧別」に実行委員会の送迎バスとトラックが来ることになっており、慣らしを兼ねて上芭露の実家から自転車走りました。この年齢で腰痛と膝痛の爆弾を抱え、平均スピードはどれくらいか、はたして200kmを本当に走りきる体力があるの

愛ランド湧、お袋の応援 7/2



で購入したとのローカルな話題に周囲の人も大笑いでした。「愛ランド湧別」は全コースのか、初めての挑戦で不安が先行します。走ってみると完走することを目的とした大会で、心配していたほどスピードは速くなく、沿道の声援もあり、楽しく走ることができました。たまたま休憩ベンチで隣に座った人が同じ茨城県の笠間市の人で、私も知っている守谷の自転車屋

ほぼ中間地点で休憩所ともなっており、お袋と奥様が迎えてくれました。

同じグループに同姓の清野さんがいて話しかけたところ、登別在住。新潟県の新発田市の出身だが、集落は明治維新までは会津藩に属していたということから、どこかで繋がっているかもしれません。

常呂から網走までは旧湧網線の廃線跡がサイクリング専用道路となっており、高校時代は映画「網走番外地」の影響もあり網走は観光の最盛期で賑わい、兄と湧網線に乗って行った覚えがあります。湖を見ながら走る景色は実に懐かしいものでした。三日間、自転車で世界中回っているなど様々な人と出会い、風や景観を楽しみ、改めて生まれ故郷の素晴らしさを実感できました。

最終日に、バスで道の駅まで帰ってからは湧別のチューリップ湯へ直行し水風呂でアイシングしたせいかわ、筋肉疲労もなく快適です。

七月四日(月)マウレ山荘でクラス会

この季節の北海道には珍しく朝から雨。二日前の夕方自転車も振ら

つくば山と練習コース



午後芭露を出発し、遠軽町丸瀬布の「マウレ山荘」で上芭中のクラス会へ。今回は中学卒業以来初参加の岐阜県の稲垣君を含めて二人が夫婦の参加、総勢十九名と賑やかになりました。六時、冒頭、上田誠一君に黙とうささげた後に開会としました。各自から順番に近況報告などを行い、賑やかで楽しい宴会となりま

マウレ山荘 7/4



記念樹前 7/5



した。記念写真等の後は、九時から幹事部屋で二次会が始まり、童心にかえって日付が変わってもよもやま話で大騒ぎでした。

七月五日 (火) 網走観光ホテル

雨はあがり爽やかな山中の緑がまぶしい。朝食後に皆で近くの「山彦の滝」を散策しました。その後、上芭露の閉校記念碑、記念樹、墓参りなどをして解散しました。私は稲垣君と湖水の杜へ、親父はちようど昼食中、お袋も来ており地域の皆さんと昼食中でした。その後、遠来者を中心に網走へ向けて車相乗りで走り、網走観光ホテルへ。クラス会二次会は十一名、二晩連続のミニ修学旅行です。その晩は「修の電動自転車はいくらくらいするものか」と真顔で聞いてくる。昨夜は自転車を話題にしても説明も反論もしないので、皆で絶対に電動式だということになった。私は「誠一への弔いの旅なのであまり軽々に語るべきでは

網走観光ホテル 7/6



ないと考えた」、しかたがないな「誠一すまん、完走したから喪は昨夜の一晚だけで勘弁してくれ」と断りをいれました。「昔と違って最近の自転車は完成度が高く時速30kmはそれほど筋力をいらさない。」と説明すると、「やっぱり電動式じゃないか」というやりとりで、まさか自転車が酒の肴になってしまうとは思いつきませんでした。

七月六日(水) 帰路

ホテルを早めに出発し、途中浜サロマで魚屋へ立ち寄り、昔、クラスの徒歩遠足で山越えした志露峠を経由して芭露へ。

午前中はテラーで畑耕しの続きを行い、午後一番で帰路へ今回は八泊中、往復船中二泊、サイクリング二泊、クラス会二泊となり、実家には二泊しかできない日程となり誠に申し訳ありませんでした。生まれ育った故郷への感謝の旅でした。